

はい！

男と女が共に歩むための情報誌

Hi, あきしま

vol.38
2014.10



特集

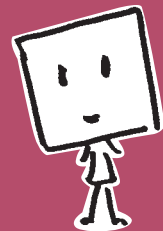
この人に聞け！
「アクティブシニア時代の到来！」
～高齢者が生き活きと元気に暮らすために～

- 男女共同参画社会実現のために
「市民の意識と施策の評価」
- 「ワーク・ライフ・バランス」
～働き方・暮らし方～

コラム 人間模様

●BOOK GUIDE

『イクメンで行こう！』
『液晶画面に吸い込まれる子どもたち』ほか



特集

アクティブシニア時代の到来！

高齢者が生き活きと元気に暮らすために



高齢化社会が深刻化するなか、アクティブシニア（元気な高齢者）のための様々なサービスを展開し、話題となっている株式会社Shunka（シユンカ）の飯田会長にお話を伺いました。

（いidaまさみ）
飯田 正己

株式会社Shunka春華乃会会長。50歳からの生き方、働き方を、かつてない革命的視点からデザインする。アクティブシニアの再登板支援をライフワークとし、全国各地で講演するなど啓蒙活動に勤しんでいる。

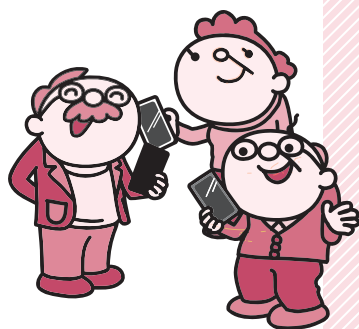
「アクティブシニアのための活躍の場を提供する。」

今の日本の社会では、65歳以上の方々を「高齢者」とお年寄り扱いしますが、今のシニアの方々はまだまだ若く元気です。

また、国の制度として、経済的に困難、あるいは介護が必要となったシニアの方々にはある程度の保障がありますが、元気で活躍したいシニアの方々に対するサービス等は、残念ながら充実していません。

そこで私たちは、アクティブシニアに向けた様々なトータルプランニングを低料金で提供しております。そのためには、アクティブシニアの方々が本当に何を求めているのか、彼らに関するあらゆることを調べたり考えたりしています。

具体的に言うと、医療相談電話、オンラインタブレット、会報誌、旅行やパーティー等、その他様々なシニア向けのイベントやサービスです。



例えば、「少し体調を崩したようだけれど、病院に行った方がいいのか」や、あるいは「このサプリメントは服用中の薬と併せて飲めるのか」などといった医療相談を気軽に電話で問い合わせることが出来るサービスを実施しています。今後は「ちよっと醤油が欲しいのだけど」とご連絡があれば、すぐに対処させていただきます。また、「コンシェルジュサービス」も予定しております。言わば会員専用のホテルスタッフのような存在であり、24時間いつでも低料金で利用できるようなサービスです。

提供するものは、サービスだけではありません。楽しむだけでなく、働ける環境も作らないといけません。シニアの方々が生き活きと過ごすためには、仕事ができる喜びも必要だと私は確信しています。

それぞれ個人の得意な能力を活かし、好きなことで好きなだけ稼いでいただく。シニアのみならず、これから自分にもできるという企画を作っていくべきだと思います。いい経営とは、例え仕事が苦手と思っている人でも、自分にもできるという達成感を味わえるような仕組みを、作ってあげることだと私は思っています。

「見たい景色がそこにあるからできるのです。」

よく「どうしてこのような利益の薄そうな、ボランティアのようなビジネスを始めたのですか」とか、「よくやっていられますね」などと言われる。若い頃の私は、中古車販売の営業をしていて、稼ぎたくて稼がたくて、がむしゃらに働き、望み通りたくさん稼がりました。もう隠居して好きなことだけして暮らすことも十分可能な身です。それなのに、その蓄えたものを今シニアの方々のために使いたい、そう思うようになりました。

さんざん稼いで、飲み屋のお姉さんに散財したりもしました。しかし、その時は楽しく、豪遊する自分に優越感を覚えたりもしましたが、後には何も残らなかったのです。今は自分が稼いだお金を、どうせ使うのなら、恵まれない子どもたちや、アクティブシニアたちがもっと輝いたり、生き甲斐を感じたりするようなことに使っていきたいと思うようになったのです。

私には見たい景色があります。それは、全国の街中に、普通のおばあさんおじいさんが、タブレットを片手に自信に満ちた、生き活きとした姿でさっそうと活躍されている姿です。これが私の原動力となっています。

そのために、現在私たちはシニア向けのタブレット教室を全国で展開しています。当社でシニア向けのオリジナ



ルタブレット「ジバレット」を開発しましたが、どの社のタブレットでもいいのです。まずはタブレットに興味を抱いていただき、慣れていただく。将来的にはそのタブレットを用いて、それぞれが好きな仕事ができるようになることを目指しています。例えば、「買い物広場」というサイトがありますので、そこで自分が制作したものを売ったり買ったりできますし、読者モデル閲覧などもできたりするようになります。可能性は無限に広がっていきます。

また、今年の5月には、名古屋に「COLOLO（コロコロ）テラス」というコミュニティ施設をオープンさせました。ここにはカフェテラスがあり、フリードリンクも完備しています。会員は誰でも自由に利用でき、またご自身の得意分野を活かして教室を開講したりもできます。ネイルをしたりエステをしたり、お茶やお食事をしたり、気軽に楽しく触れ合える施設で、今後全国に展開していく予定です。

やがて私も60歳になります。その時に「まだまだこれからだね」と言われるような世の中になりたい。皆が生き甲斐を感じて、生き活きと暮らせる。それこそが老化防止にも病気予防にも繋がるのだと私は考えます。それが本当に高齢者を大事にすることだと信じています。



に、レーザービーム等の照明を用いる本格的なショーとなります。私たちがのコンセプトは、普通の中高年女性たちが、少しの努力と勇気でこころに夢を与えるのだと、完全に手の届くところで、化粧品できれいになる以上に、内面から美しくなることができるのです。彼女たちに夢や喜びを与えることが私の仕事です。



▲2014年4月名古屋にて開催されたファッションショー

60代、70代のファッションモデル



▲ Brilliant

私たちは年4回、ブリリアント（Brilliant）というオールカラーの雑誌を発行しております。一般向けにも販売されていますが、正会員には全て無料でお届けしています。

この雑誌の企画で男女の読者モデルを大々的に募集しています。会員であれば、誰でも登録でき、本物のモデルさんのようにヘア・メイクをしてきれいになっていただき、写真撮影をします。希望者には読者モデルとして専属契約をし、お仕事をさせていただきたいと考えています。

雑誌モデル以外にも、様々なグループ会社のパンフレット等の販促ツールがございますので、モデルとしての仕事はたくさんあります。また、この11月には、60歳以上のモデルさんによるファッションショーを行います。

モデルさんは全て普通の一般の会員さんです。観客動員数千人以上の大規模なもので、神戸コレクションのよう

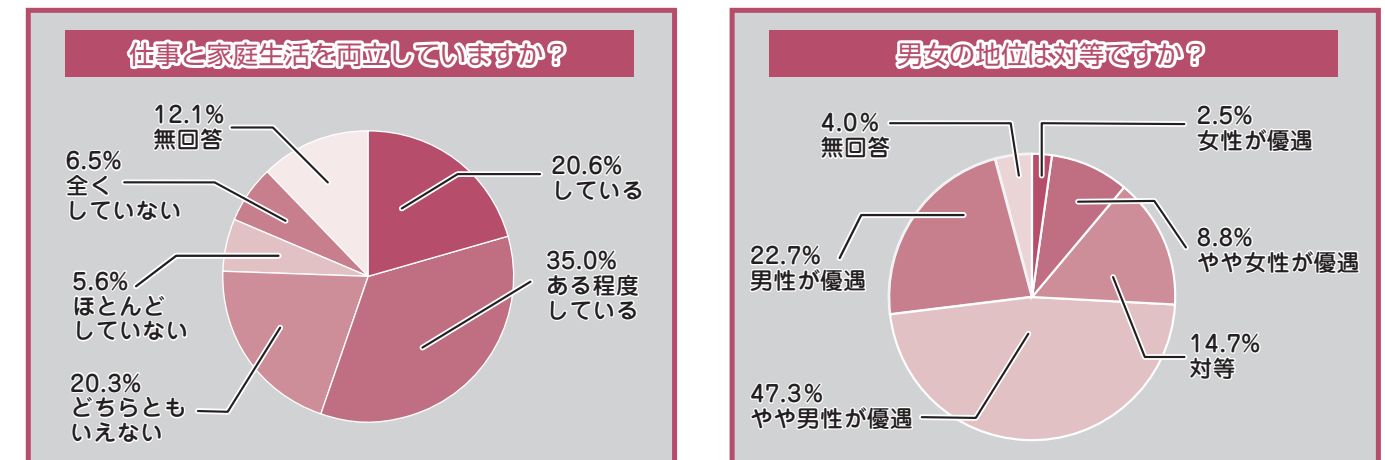
～男女共同参画社会実現のために～ 市民の意識と施策の評価

昭島市では平成23年4月に、男女共同参画社会の実現のためのプランを作成し、さまざまな施策に取り組んで来ました。その施策の推進により「男女共同参画」の理念や現状は、どのくらい市民の皆さんに浸透しているのでしょうか？ また、その施策に対する評価はどのようになっているのでしょうか？

今回は、平成25年度に実施された「昭島市市民意識調査」から市民の皆さんの認識をうかがい、また平成26年7月に行われた「昭島市男女共同参画推進委員会」の進捗状況の評価から、そのことを見ていきたいと思います。

より具体的な生活への意識についても聞いてみました。あなたの家庭ではどうでしょうか。

【男女の地位とワークライフバランス(仕事と家庭生活の両立)】

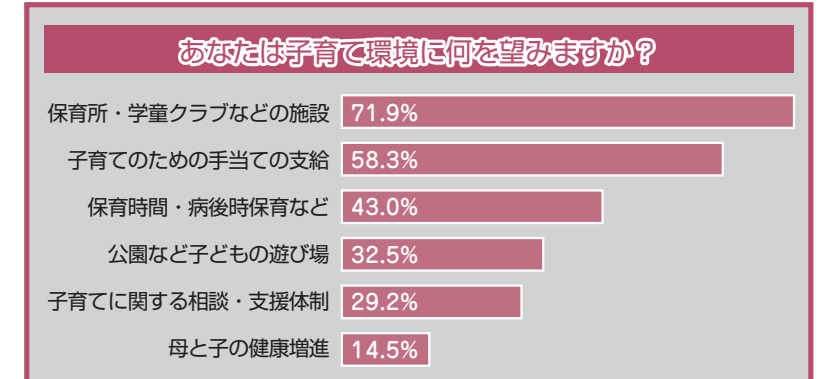


男女共同参画社会の実現のため、子育てには支援が重要ですが、市民の皆さんが求めるものは？

【子育て支援で望むこと】

この結果を見ると市民の要望は、施設の充実、手当の支給にあるようです。プラン策定時の意識調査（平成21年度）の項目、『女性が働く上での障害』を挙げたうちで上位2項目は、「仕事と家事育児の両立」「保育施設などの整備が不十分」でした。

概ねハード面での充実が望まれているようですが、それだけ子育て中のお母さんにとって、緊急かつ切実な問題であると思われる。



2 推進委員会の評価から

7月2日に本年度の「昭島市男女共同参画推進委員会」が開催され、平成25年度の進捗状況の一部について評価が行われました。この委員会は、学識経験者4名（大学教授ほか）と公募市民委員4名が、市が策定した「昭島市男女共同参画プラン」の推進状況を確認し、その結果について評価する委員会です。7月評価のあらましを報告いたします。7月委員会での評価：各主要施策ごとの評価とコメントの概要は以下のとおりです。

主要対策	評価	主なコメント
人権意識の育成	優	●講演会、セミナーに関しては、親しみやすい企画だが、知名度が低い。 ●熱心な取り組みが感じられるが、施策の効果の検証が行われていない。
多文化共生社会の場での男女共同参画の推進	良	●取組が難しいため各課の評価も低い。 ●ニーズの掘り下げが必要ではないか。
男女共同参画に関する啓発	優	●様々な講座が行われているが、男性の参加促進が課題である。
メディアにおける男女平等意識の形成	良	●メディアが時として偏見を流す傾向もあることから、メディア・リテラシーはとても重要な概念として理解しなければならない。
幼稚園・保育園の場における男女平等教育・学習の推進	優	●この年齢の子どもは知識より経験が大事であり、家庭での接し方が重要になる。
学校教育の場における男女平等教育・学習の推進	優	●男女の違いを意識し始める年齢であり、市のサポートを継続してほしい。
家庭・地域社会における男女平等教育・学習の推進	優	●家庭における男女平等の推進について、男性の意識を高めるために、取組に工夫が必要。 ●夫妻を対象にした講座・セミナーがあってもいい。近隣市では実施している。

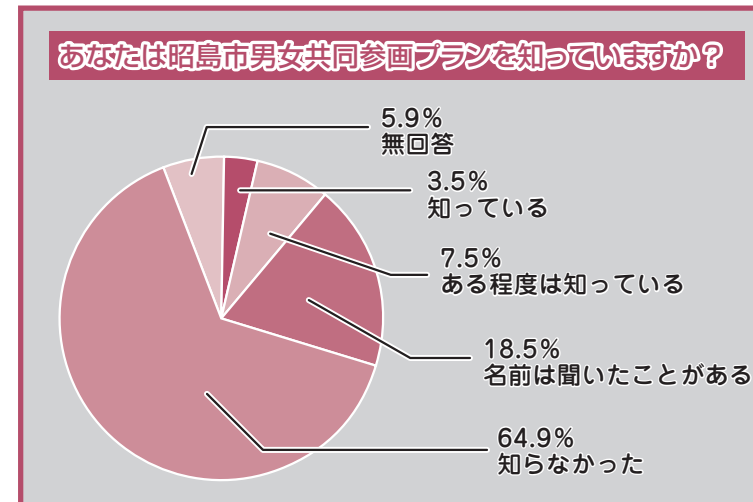
■評価対象項目：“プラン”に基づいて市の各部署が実施した施策、及び主要事業148事業。
■評価方法：上記項目について、部内で評価した結果と推進状況を参考に、各委員が意見を述べるとともに主要施策ごとに「秀・優・良・可・不可」の5段階評価で評価し多数決で決定します。
※なお、その他の主要施策評価は8月9日と継続して実施されます。

1 市民意識調査からみる

まず、市の施策推進の基となっている「昭島市男女共同参画プラン」の認知度はどうでしょうか。

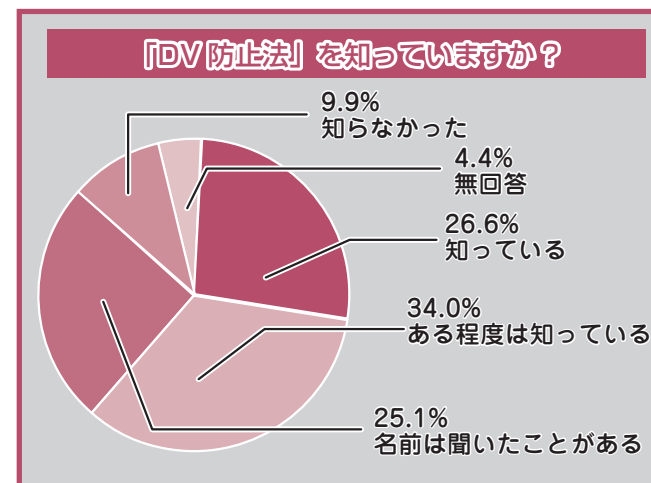
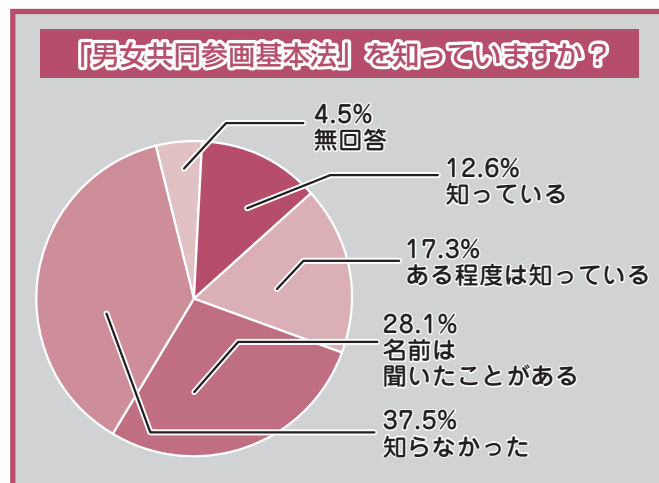
【男女共同参画プランの認知度】

「知っている」と「ある程度は知っている」を合わせても11%でした。これに対して「知らなかった」は約65%にも及んでいます。「知らなかった」と回答した人の割合は、男性67.6%、女性63.0%で、大きな違いはありませんでした。プランそのものは知らなくても、さまざまな施策の推進を通じて「男女共同参画社会」の理念そのものは市民の皆さんに浸透しているのではないのでしょうか。



ちなみに国の関係法律についての認知度は、以下のとおりです。

【国の法律等の認知度】



コラム 人間模様

私の住む団地にも、少子高齢化の波が押し寄せている。二校あった小学校が、今後一校に統合され、65歳以上の高齢者が、三割以上も占めるようになっていく。

そこでは、毎日さまざまな人間模様が繰り広げられている。住民同士の間では、特別濃密な関係が存在しないが、いつも行き交う人に、しばらく会わないと心配になったり、洗濯物が干されていないと、気掛かりになる。

どうやら長い間住んでいると、住民同士に親近感や絆が、生まれてくるようである。

そのような中で、私の心を捉えた二組のご夫妻の姿を紹介したいと思う。

偶然ある日、初老のご夫妻に出会った。

上品な淑やかな感じの妻は、いつも夫に寄り添って歩いていた。私に出会うと、にこやかに軽い会釈をした。

その仲睦まじい様子を目の当たりにした私は、「散歩かな。買い物かしら。」と、思ったものである。

ところが、ある日を境にして、姿が見えなくなった。「どうなさったのかな。」と、不安に駆られながらも、名前もわからず、気をもむばかりだった。

どれだけ日数が経ったのだろうか。

“ディサービス”の送迎車の前に、車椅子に乗った妻を押す夫の姿があった。

「病気だったんだわ。ご主人かと思ったら、元気だった奥様の方がね。」と、驚いた。

妻の表情は乏しかったが、暑い日には帽子を被り、寒い日は膝掛けを掛けた姿は、実に穏やかだった。

夫は、そんな妻を気遣いながら、ゆっくりと車椅子を押していた。

慣れない家事や介護は、さぞ大変だろうと思われたが、夫の姿には気負いがなく、自然体に見えた。そこには、長い間人生を共に歩いて来た者だけが知る情愛が感じられた。

私は、思わず笑みがこぼれ、心から声援を送ったのである。



我が号棟にも、ちょっぴり有名な初老の紳士がいる。その方は、とても真面目な上に、びっくりする程頑張り屋でもある。

二度も病に倒れ、半身不随になった体で、くる日もくる日も歩いていた。

はじめの内は足を引きずり、顔をゆがめ、一步一步這うように歩いていた。

一年経つと、少し速度が早まり、地面を踏みながら歩けるようになった。

さらに一年経つと、杖をついて歩けるまでに回復し、ご夫妻で歩いていた。

思わず、「ご主人、元気になられて、よかったですね。」と声をかけると、「ありがとうございます。でも頑張り過ぎるのが少し心配です。」という答えが返ってきた。

時には、姿が見えない日があると、「まさかぶり返したのでは…」と、心を痛めました。

今では、一人でマーケットまで買い物に行ったり、郵便局へも行ったりしているようだ。

私の顔を見ると、「今まで妻に迷惑をかけた分、これからは手助けをしたいのです。」と頬を赤らめて話していた。

信じてくれる、許してくれる、寄り添ってくれる、それが家族であり、家族の原点ではないだろうか。そんな家族でありたいものである。

(WK)

11月12日～25日は 女性に対する暴力をなくす運動週間です

DV(ドメスティック・バイオレンス)や性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などの女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものです。

11月25日は女性に対する暴力撤廃日、国では、25日までの2週間を、女性に対する暴力をなくす運動期間と定めています。この機会に、女性に対する暴力について考え、暴力のない社会づくりを進めましょう。



女性悩みごと相談 無料

● 家族関係やからだ、心の悩みなどはありませんか？女性の「フェミニストカウンセラー」が相談に応じます。お気軽にご利用ください。

● 相談日：毎週水曜日午後1時～4時
(祝日・年末年始は除く)

● 相談時間：一人50分

● 場所：市役所3階 小応接室

● 相談方法：電話または面接

● 利用方法：予約制

TEL 042-544-5130(直通)



ワーク・ライフ・バランス ～働き方・暮らし方～

老若男女誰もが、仕事・家庭生活・地域生活・個人の自己啓発など、さまざまな活動について自ら希望するバランスで展開できること。
～「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告～
(平成19年7月 男女共同参画会議 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会より)

一口に『働き方・暮らし方のバランス』と言っても、世代によっても、地域によっても千差万別。そんな中、今回は、昭島周辺の子育て世代にスポットを当てて聞いてみることにした。子どもが小さいうちは自宅でもできる仕事、小学生になったら短時間勤務、中学生以上では残業の無いフルタイム：と考えている家庭が少なくない。しかし、それらの仕事については、なかなか難しい現状があるようだ。

そんな中、国は育児中の女性が仕事を続けやすくするために、在宅勤務を導入する企業の後押しを始めた。まだまだ導入されている企業は少ないが、在宅ワークII子育てがしやすい、というのは本当だろうか？

そこで、実際に在宅勤務・在宅ワークで働いている数人に、メリット・デメリットを聞いてみることにした。

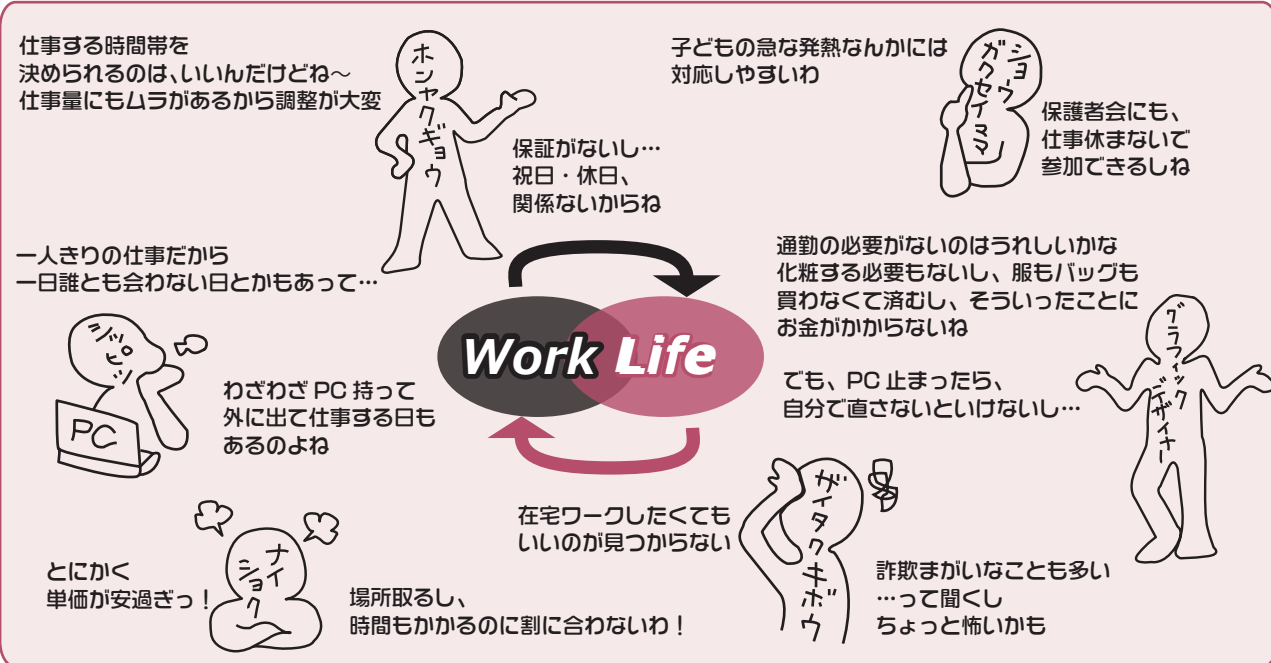
在宅ワークといっても『内職』から『個人事業主』まで幅が広い。元の職場から在宅の依頼を受けるという人もいれば、在宅ビジネスという詐欺まがいの行為で苦労した経験があるという人もいる。一から在宅ワークを探し、安定した仕事として続けられている人はラッキーなのだろう。

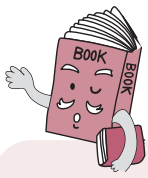
一方、グラフィックや翻訳などの専門的な知識や技術で、在宅ワークをしている人もいる。通勤の必要がないなどのメリットはあるが、保証が無い・納期を落とすと次の仕事ももらえない・可能性が高くなるので病気でも休むことができない、などのリスクもあるようだ。部屋で一人の孤独な作業。気分転換をうまくとれないと、鬱を招く危険度もあがるので、注意が必要。

「子育てしながら在宅ワークで仕事も育児もラクラク両立♪」というわけにはいかなさそうである。もちろん、料理をしながら上の子の宿題を見てPCチェックをし洗濯機を回して下の子の授乳をしつつ執筆の仕事をするなんて神の手を持っている人もいよう。

しかし、納期が近づき、掃除機も朝ご飯の食器も片付けられず、汚れた部屋で仕事をこなし、おやつとテレビに子守りをさせて「これじゃいけない」と、洗面所に顔を洗いにいったら山積みの洗濯物が：なんていう日もあったりするものだ。

ともあれ、選択肢が増えるのは悪いことではない。自己管理・コントロールが『働き方・暮らし方』を豊かにしていくのだろう。…と書きながら、耳の痛い筆者であった。





BOOK GUIDE

今年度購入した本は、男女共同参画ルーム「おあしす」にあります。
問合せ先 企画政策室 042-544-5111 内線 2373

✿ ワーク・ライフ・バランスの鏡！



『イクメンで行こう！』

—育児も仕事も充実させる生き方—

渥美 由喜 著
日本経済新聞出版社 2010年12月

著者やイクメンたちの体験をもとに育児や家事と仕事を両立させるコツをストーリー形式で楽しく語ります。しかし、本書はイクメン・ライフの楽しさや苦勞を単に語っているのではない。育児や家事と関わることで「業務」仕分け」による「職場におけるワーク・ライフ・マネジメントの実践」や地域の人々との出会いによりヒントを学んだ「地域社会での子育て支援」についても伝えている。著者の座右の銘は「市民の三面性 = 家庭人、職業人、地域人」とのこと。これぞまさにワーク・ライフ・バランスのロール・モデルとなる生き方であろう。

✿ 子育ての規範を問い直す！



『近代家族と子育て』

沢山 美果子 著
吉川弘文館 2013年3月

近代家族とは女・男・子どもにとって何であったかを、家庭という生活空間の場と子育てに焦点をあて探った一冊。そして、現在も人々を縛り続けている子育てをめぐる規範の歴史性を明らかにする。主な内容は、『家庭』『子ども』の誕生、近代家族の妻・母として「育児を担う母・消える父」「保護される子ども」の近代「母性」「父性」を問うなどである。著者は「近代固有の子育てのありかたを歴史の中で問い直し」現代に通じる問題をなげかける。

✿ 良い情報環境をつくる！



『液晶画面に吸いこまれる子どもたち』

—ネット社会の子育て—

下田 博次、下田 真理子 著
女子パウロ会 2013年10月

子どもたちにとって、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどを媒体としたインターネットの利用は、一歩間違えば深い闇の世界へと吸い込まれることを秘めている。メディア・マジックの力による「ネット依存の危険」「見る・聞く・嗅ぐ・触る・味わう」の発達を損なう」ほどの影響を与える「おもちゃのアプリ」。「メディア・マジックの影響を受けやすい思春期」は「子どもの人生を壊すほどの力」があるという。本書はそのような「最新のメディアが作り出す情報環境での子どもたちの育ちに与える影響」と、子どもたちの成長に良い環境とは何かを考える。

✿ その他、今年度購入した本

- ◆『こうして女性は強くなった。』
—家庭面の100年—
読売新聞生活部編 中央公論新社 2014年1月
- ◆『家族難民』
—生涯未婚率25%社会の衝撃—
山田 昌弘 著 朝日新聞出版 2014年1月
- ◆『女性起業セミナー』
—わたしを、日本を元気にする生き方—
辻 朋子 著 DearWOMAN編 平成出版 2012年12月
- ◆『自分たちでつくろう NPO 法人！』新版
—認証・登記から認定 NPO 法人まで NPO 法人設立完全マニュアル—
名越 修一 著 堀田 力 監修 学陽書房 2012年12月
- ◆『女性社長が日本を救う！』
横田 響子 著 マイパワーメディア 2013年9月

INFORMATION

男女共同参画講演会

「一人ひとりがイキイキと働き、暮らすワークライフバランス」
～育児・介護と仕事の両立～

講師：内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー
(東レ経営研究所 研究部長) 渥美 由喜 さん
日時：平成26年12月7日(日) 午後2時00分～4時00分
場所：昭島市役所 市民ホール
定員：130名(申込順)
保育あり(2歳以上の未就学児5人、申込順、11/26 申込期限)
申込：企画部企画政策室 TEL042-544-5111(内線 2373)
11/4(火)より電話で受付

男女共同参画セミナー

「ありのままの自分を大切に DVなんかには負けないで！」

講師：多摩総合法律事務所
弁護士 露木 肇子 さん
日時：平成26年11月20日(木) 午後2時00分～4時00分
場所：昭島市保健福祉センター (あいぼっく視聴覚室)
定員：30名(申込順)
保育あり(2歳以上の未就学児5人、申込順、11/10 申込期限)
申込：企画部企画政策室 TEL042-544-5111(内線 2373)
10/16(木)より電話で受付

